

## 私のすすめるこの1冊

東村 知子(幼児教育科 准教授)

### 『先生はえらい』

内田樹 (著)

みなさんが考える「えらい先生」は、どんな先生ですか。これまでの人生で出会った中で、特に記憶に残っている先生はいますか。本学にいる人たちの大半は、「現に先生という立場にいる人」か「これから先生になろうとする人」ですね。私は小学3、4年生時の担任の先生が好きで、先生になることが夢だった時期もあったのですが、大学生の時に家庭教師をして自分には向いていないと悟りました。それなのになぜ今「先生と呼ばれる人」になっているのか、我ながら本当に不思議です。ただ、私は学部生のころから教育に関わる現場に入って研究をする機会に恵まれ、人を教える・育てることはなぜこんなに難しいのだろうと考えてきました。また自分が教える立場になり、何をどう教えればいいのかと常に悩みながら授業をしてきました。今回ご紹介する本は、「私はいい先生になれない。やっぱり向いていない」と落ち込んでいたところに読んで心が軽くなると同時に、「ああ、そういうことだったのか」と腑に落ちる経験をした一冊です。

本書では冒頭から、一見常識に反するような主張が次々に飛び出します。「先生運などというものはありません」、「誰もが尊敬できる先生なんて存在しません」、「師弟関係も恋愛と同じように、本質的には誤解に基づくものです」。著者の語り口は軽妙で、話題はあちこちに飛びながら、最後にはちゃんとオチがつくという神業のような本なので、要点を簡潔にまとめるというのは至難の技です。そこで、特に

印象に残っている箇所を一つだけ紹介したいと思います。

本書の終わりに、「張良」という逸話が紹介されています。張良が黄石公という老人に出会い、奥義を伝授してあげようと言われる。張良は喜んでお仕えするが、先生は何も教えてくれない。ある日張良が街を歩いていると、先生がやってきて、張良の前で左足の沓を落とす。「取って、履かせよ」と命じられ、張良は黙って沓を履かせる。別の日にまた同様のことが起き、ムツとしながらも沓を拾って履かせた瞬間、張良は全てを察知して、奥義を会得する……。著者によれば、この逸話のポイントは「先生は何も教えていない」という点にあるそうです。先生がわざと沓を落としたのかどうかわかりません。しかし、張良はそこに意味があると思ってしまいました。著者はこれを「学びの主体性」と呼んでいます。先生は何もしなくてもよい、ということにはならないでしょうが、人はどんなことからも学べるのであり、学ぶかどうかは結局学ぶ側次第なのだ、と私は心の底から納得しました。「学びの主体性」という意味では、みなさんがもし本書をお読みになったとしても、そこから受け取るものはそれぞれ違うことでしょう。どこがおもしろいのかと疑問に思われる方もいるかもしれませんが、それでも、わかっていると思っていたことがわからなくなる不思議な「内田ワールド」に、一度浸ってみませんか。



## 第28回 うたとおはなしの会

平井 恭子  
(幼児教育科 教授)

報告

平成29年4月29日(土)に第28回「うたとおはなしの会」が開催された。当日は朝から晴天に恵まれ、親子連れを中心に137名の参加者で会場はいっぱいになった。

開会に先立ち図書館長村上先生から挨拶をいただいた後、「ぶんぶんぶん」を歌いながら4人の学生が登場すると、会場からは大きな拍手がおこり、和やかな雰囲気のもとで会が始まった。最初のプログラムはパネルシアター「ふしぎなトンネル」である。1台の自転車が大きな山のトンネルを抜けると、バイクに変身、バイクがトンネルを抜けると車に変身、車はバスに、バスは電車に、電車は新幹線に…、という風にどんどん新しい乗り物に変化するという内容である。子どもたちは、トンネルの出口から新しい乗り物が出てくるたびに「うわぁ〜っ」「ええ〜?!」と驚きの声をあげ、学生とのやりとりを楽しむ様子が見られた。

続いて、「おべんとうばこ」の手遊びを楽しんだ子どもたちは、絵本「ありのおでかけ」(西村敏雄/作)を鑑賞した。ありたちが真っ赤なバスに乗って出かける様子がユーモラスに描かれていて、「どこを走っているのかな」、「次はどこに行くの」など、保護者と小さな声で相談しながら絵本に見入る子どもたちの姿が多く見られた。

絵本に続いて登場したのは、バイオリンやクラリネットなどいろいろな楽器を手にした「音楽隊」の学生たち(e-Projectのメンバー)である。音楽隊に扮した学生たちは、それぞれの楽器を紹介した後、2台のバイオリンで「トルコ行進曲」(モーツァルト)、女声2重唱「どこまでも〜How far I'll Go〜」(ディズニー映画「モアナと伝説の海」よりの)2曲を演奏し、美しい音色に会場からは大きな拍手が起こった。そして、最後には子どもたちも好きな打楽器を持って、音楽隊とともに「夢をかなえてドラえもん」の演奏に参加した。0歳女児と3歳男児とともに参加した保護者からは「0歳児も楽器の演奏にしっかり反応していました。子連れでコンサートにはなかなか行

けないので、とてもいい経験になりました」と感想を述べていた。

楽器遊びで大いに盛り上がった後、学生のリードで「5つのメロンパン」の手遊びを楽しみ、最後のプログラムの人形劇が始まった。今回はロシア民話「おだんごパン」を上演した。子どもたちは、おだんごパンが出会った動物に食べられそうなるたびに、歌を歌って逃げだすというストーリー展開を楽しんでいる様子だったが、最後にきつねに食べられてしまうシーンでは、「あっ、きつねさんに食べられたー!」(3歳男児)と、残念そうな表情を浮かべる子どもの姿も見られた。そして最後は、登場人物たちの呼びかけで集まった、幼児教育専攻1回生15名が「てのひらをたひように」を大合唱し、盛会のうちに閉会した。

大好評のお土産は、今回の人形劇にちなんで「おだんごパン」(フリース生地で学生が手作りしたもの)を用意した。子どもたちは受付でもらった「おだんごパン引き換え券」をパン屋さんに扮した学生に手渡し、嬉しそうに「おだんごパン」をもらって帰っていた。

参加者からは、「昨年春に4歳の子どもと参加して、とっても楽しかったので、また来ました。」(5歳女児)「オープニングから子どもたちがずっと集中していました。今回3回目ですが、これまでで一番楽しめたようです」(3歳男児)など、多くの好評をいただいた。

昨年、参加者が200名を超えたことを受け、今回から初めて参加者の人数制限(先着130名)を行った。その結果、一部参加できなかった人もいたが、来場者にはスペースの余裕をもって楽しんでいただくことができた。今後もなるべく多くの方に気持ちよくご参加いただけるよう、様々な工夫をしていきたいと考えている。



## 学修相談カウンター 6月もあります！

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？  
どんどん利用してください！お気軽に！

【場所】北館2階ラーニングcommons

【時間】16:30～19:30の

該当時間



## リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！

- ・学習研究目的のものは原則として購入します。
- ・学習研究以外の目的のものは、毎月10日までに受付した分を15日～月末に館内で投票し、票の多かった本を購入します。

結果によっては購入できないこともあります。

リクエストや投票にどんどん参加してください！

※6月の投票期間は

**6月15日(木)～6月30日(金)**です。

※図書館1階渡り廊下と北館2階研修セミナー室前に掲示します。

リクエストは  
随時受付中です

(リクエスト方法については、  
館内掲示をご覧ください。)



(場所：児童書コーナー)

今月の「えほんのよみきかせ」は、

**6月19日(月) 15:00～** です。

※絵本カードは幼児教育科の学生が作成し、児童書コーナーに展示しています。ほかにも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

今月の絵本カード



『そらまめくんのベッド』

作・絵： なかや みわ  
出版社： 福音館書店

★あらすじ★

そらまめくんのたからもののベッド。ある日、突然なくなります。はたして そらまめくんのベッドは見つかるのでしょうか？

## 図書館講習会のお知らせ

海外文献検索入門…海外の文献を集めよう！

Web上で論文本文を読んだりすることも可能な海外文献データベース EBSCOhost, ScienceDirect, SpringerLink や、国内・海外の文献をまとめて検索できる EDS というサービスをご紹介します。

【開催日時】

6月13日(火)～14日(水) 12:00～12:30

6月15日(木)～16日(金) 16:15～16:45

Tools 講座…レポートや卒論・修論に役立つツールを知っておこう！

レポートや論文を書くのに便利なツールをご紹介します。今回は文献管理を行うソフトウェア Mendeley と、お馴染み文書作成ソフト Word の様々な機能を紹介します。

【開催日時】

文献管理編：6月14日(水) 14:00～14:30

Word 編：6月14日(水) 14:40～15:10

【集合場所】 附属図書館カウンター

【申込方法】 希望日時、所属、氏名を明記の上

library@kyokyo-u.ac.jp まで

(当日参加希望は、5分前までにカウンターへ！)

※詳細は、ホームページやポスターで！

## 【報告】企画展示室(北館1階)

追悼展 土倉亮一名誉教授「小さな花と実」によせて

2017年3月24日(金)～5月10日(水)にかけて、“追悼展：土倉亮一名誉教授「小さな花と実」によせて”と題して、土倉亮一名誉教授が晩年に制作した植物画を中心に展示を行いました。会期中は学生や教職員の他、地域の方や生前の土倉先生を知る方々など約300名が訪れ、のびやかなタッチの中に確かな観察眼の光る絵を楽しんでいる様子でした。

なお、今回の展示にあたり、ご遺族の皆様および本学名誉教授や本学教員の皆様には多大なるご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。



## 教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品「京都学芸大学設置認可申請書」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示をしていますので、ぜひミュージアムへ来てくださいね！



詳しくは…教育資料館 まなびの森ミュージアム

<http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html>

今回の執筆者 **比良 友佳理** (社会科学科 講師)

論文執筆をめぐる著作権法上の諸問題  
—裁判例の分析を中心に—

比良 友佳理

京都教育大学紀要. 2017, No.130, pp.71-84.

近時、研究をめぐる様々な不正がメディアで相次いで報道され、研究不正や論文執筆における不正が社会問題化しています。捏造やデータの改ざんと並んで、研究不正の代表として挙げられるのが「盗用」です。論文執筆の過程で著作権侵害の疑いがかけられると、単なる法的な問題のみならず、倫理的、道義的な責任問題にまで発展し、近年ではそれがネット上の炎上へとつながるケースが増えています。他方で、著作権侵害のリスクを恐れるあまり、研究活動が萎縮してしまうことは、元も子もないといえるでしょう。

この論文は、「盗用」を中心に、研究不正に関する著作権法の論点を類型化し、研究者が著作権法上、どのような点に注意を払えばよいかを明らかにしようとするものです。具体的には、複製権・翻案権侵害、引用、改変、オーサーシップをめぐる紛争といった、論文にまつわる主要な紛争について、実際の裁判例の紹介を交えながら、著作権法の基本的な内容を解説しています。

著作権法の究極目的は「文化の発展」(著作権法1条)です。研究者一人ひとりが、著作権法に関する正しい知識を身につけることで、過度に萎縮することなく自由な発想で研究活動を行うことができると考えられます。これは、表現の自由(憲法21条)、学問の自由(憲法23条)にも関わる問題であるといえます。

大学教員などの研究者はもちろん、学生のみなさんもれっきとした研究の担い手の一員です。この論文が、レポートや卒業論文を執筆する際の参考になれば幸いです。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 130 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>にも公開されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2017年6月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	
6/1 創立記念日						

2017年7月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					
7/5 館内整理日						

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ (QRコード)

<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.201(2017年6月号)

発行日:平成29年6月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

